

平成25年度事業報告書

特定非営利活動法人 アニマルクラブ石巻

1、事業の成果

2013年8月、不妊予防センターは2年4ヵ月ぶりに元の場所に戻って、再スタートを切りました。できることなら新しい土地に今までより大きな建物を建てて、来てくれる人や動物達にも、スタッフにも居心地の良い環境を整えたかったのですが、資金がありません。助成金が出るプロジェクトに応募したこともあります。現時点での日本では、動物達にまではなかなか順番が回って来ない気がしました。動物のNPO活動は、身を削ることで続けていくしかないのが現状です。私の自宅は80匹余りのシェルターと化し、駐車スペースを潰して待合室、診察室、手術室の3つの小屋を建てて、何とか週2日開院する動物病院『不妊予防センター』が機能する見通しがつきました。住む所も車を停める所もなくなり、近くに借家と駐車場を借りました。我が家だけでは足りずに、メンバー宅に預かったり協力を約束したお宅で世話されている子達も入れれば、100匹を超える猫と犬を養っていかなければなりません。それでも、「動物を引き取って欲しい」と言う電話やメールはひっきりなしに来ます。「引き取ることはできません。できるのは、助ける人をサポートすることです」と説明しても、説得に応じてとりあえずは自分が面倒を見る決心をしてくれるのは、全体の3割程度だと思います。

『動物を捨てたり虐待するのは犯罪』という法律ができて、捨てても、世話をしないで病気にしても100万円の罰金を取られる人がいないから、動物達の受難は延々と続いています。そして、法律ができて、社会からこぼれ落ちる動物の受け皿が不備だから、「市役所から紹介された」、「動物のことはこちらだと社会福祉協議会に教えられた」と、何の援助も受けていないボランティアに、問題解決が回って来るのです。引き取ることで解決しない問題だし、《多頭飼育の崩壊》になっては、今収容している動物達も犠牲者になります。アニマルクラブがすべきことは、『捨てる命は生ませない』ことを実践することと考えて、不妊予防センター事業に力を入れています。25年度、不妊予防センター事業は139万円の赤字収支でした。開院の準備資金がかかったこともあります。震災前より、お金の入らない手術や治療が増えたことも原因です。「生活が苦しい」「うつ病や体調不良が続いている」という言い訳が頻繁に聞こえてきます。それでも、知ってしまったらなるべく早く手を打たなければ、不幸になる命は増える一方なのです。必要なお金は別な所から回る工夫を考えなければならぬと思いました。ちゃんとお金を支払える人にも不妊予防センターを利用してもらって、その収益を誰もお金を出してくれない子のために使う。あるいは、遠くの方からの寄付を被災地の動物達の医療費に生かす...現状ではそうしたやりくりをしています。

昨年は、震災後間もなくからアニマルクラブでボランティアをしながら被災動物のドキュメンタリーを撮り続けた宍戸監督の映画『犬と猫と人間と 2〜動物たちの大震災』が全国で封切りとなり、私もあちこちの劇場等で監督とトークショーなどに呼んでいただきました。おかげさまで、多くの方々にアニマルクラブの活動を知っていただいて、応援していただきました。

思えば震災後、最初の年は被災地の動物愛護団体だから寄付が集まり、翌年は活動報告が出版社の目に止まり『動物たちの3・11』という本を出版できたお陰で、支援して下さる方がいました。そして、3年目は映画のお陰で、何とか乗り切りました。しかし、それに乗じて広げてしまった傘下の動物たちにかかる費用と、様々な相談を解決に導くための費用をどうやって作って行くかが今後の課題だと思います。

啓蒙活動に関しては、『遺棄や虐待は犯罪』だとわからせるためには警察との連携が必要だし、微力なボランティアに動物福祉事務所の機能を求めるのではなく、行政が「殺さない解決策」を実践していくことにボランティアが協力していくのが、本来の姿だと認識して欲しいです。